

序文 Preface

第6回天文学史研究会を2017年3月17日（金）と18日（土）に国立天文台講義室で行った。相馬 充（国立天文台）の科学研究費補助金（基盤研究（C）：課題番号 15K05038）および平成29年度機構間連携・異分野連携研究プロジェクトから旅費および出版印刷費の補助を行った。「天文学史研究会」と題するこの研究会は、2006年1月に第1回、2008年12月に第2回、2009年12月に第3回、2011年1月に第4回、2016年3月に第5回を開催した。今回はこれらに続く第6回である。歴史的記録を使って現代科学における重要な結果を導くという点に重きを置く「歴史的記録と現代科学」研究会も天文学史研究会とは独立に行っており、それは2006年6月に第1回、2009年3月に第2回、2012年3月に第3回、2014年2月から3月にかけて第4回を開催した。近年、天文学史に関する研究が活発で、今回も講演希望者が多くなり、ひとつひとつの講演時間が短くなったので、話し足りないと感じられた講演者が多かったと思われる。この点、お詫び申し上げる。次回からは研究会開催期間を延ばすことを検討したい。

今回は韓国から Sang-Hyeon Ahn 氏と Choi GoEun 氏、中国から Ma Liping 氏、インドから Shylaja Bangalore Sundararao 氏と Geetha Kydala Ganesha 氏、ニュージーランドから Liliana Clarke 氏を招いて、各国の古代の天文記録や暦等に関する研究結果について講演していただいた。そのため1日目を英語セッションにした。英語での質疑も盛んであった。

初日の座長は相馬充、大橋由紀夫、谷川清隆の各氏に、2日目の座長は野上長俊、岡崎彰の各氏にお願いした。講演内容也多岐にわたり、質疑も活発に行われ、今回もたいへん有意義な研究会になった。このような研究会の開催にご協力くださった講演者や参加者の皆さんに感謝する。

本研究会開催に当たっては、海外旅費の手続きをすばる室の高本正美氏に、国内旅費の手続きを光赤外研究部の木村弘子氏に、それぞれお世話いただいた。研究会の準備や受付等はこのお二人に加え、すばる室の野口倍美氏にお世話いただいた。光赤外研究部のWEBサイトへの研究会プログラム掲載はすばる室の山田徳美氏が、集録印刷の手配はすばる室の末広曜子氏が担当してくれた。お世話くださった方々に感謝する。

研究会世話および集録編集：相馬 充，谷川清隆（国立天文台）